

東大斗争勝利！—その意義—

東大で 十日の七学部集会のあと七学部代表団と大学側との国交で協議をつくりあげ、続いて十一日の各学部の学生大会で協議書に対する学生側の態度を決めると共に、全共斗封鎖解除、無期限スト解除等の方針を決めた。特に教養学部では、全共斗の妨害をはねのけ、代議院大会を成功させ、①協議書は要求を完全に満たすものではないが学生の自治活動拡大と東大斗争の自主的解決への第一歩であることを確認し無期限ストを解除する。②全共斗の不法な暴力を一掃し封鎖を解除する。③当局の誠意ある実行の保障としてスト権を確立する。④自治学の一応の強化発展のために斗争の項目を可決した。自分達の手で封鎖を解除しよう」と広範な学生、院生、教職員が決起し十日から十一日にかけて法文二十五、図書館と十三ヶ所の封鎖を解除した。さらに東大の広範な学友はひたすら統一封鎖を破っている安田講堂や医学部本館の封鎖解除にむかって闘いを進めている

〔東大斗争の意義〕

昨年三月から医学部大量処分から端を発し今や政局の焦点であり重大な社会問題となった東大民主化斗争の第一の意義は「軍学共同」「産学共同」等の大学における学問研究と独占資本の利益に従属させてゆくことをはじめ一部の特権的官僚者、高級労働者などの「英才教育」と、大量の安上りで従順な技術者、労働者造りを意図する「人造り政治家」大学を反動勢力の支配を維持強化するための軍口主義的イデオロギーの養成と宣伝の場にしてゆく等、米日反動、政府文部省の反動的大学支配政策強化の攻撃に対する前盾とした反撃である。東大民主化斗争は大学を反動勢力の利益に奉仕するものとするか、大学を自治を争い、大学を真に日本人民に奉仕するものに変えてゆくのかという闘いであり、また戦争と侵略、抑圧と反動をめぐる米日反動に対する、独立と平和、民主主義と生活擁護をめぐる民主勢力の闘いの一翼となっているのである。サニに現在の大増収の民主化、特に学生の自治活動をはじめとする学内諸階級の民主的権利を認めず、多くの大学入生を無権利状態におく点で政府文部省の大学支配の共通点を排つ口大協のいわゆる「自主規制路線による」「大学自治」教授会自治論の限界を打ち破り、大学に真の民主主義を確立し、大学を民主主義の塔としてゆく闘いである。サニにトロツキストをはじめ反全学連諸派の野合組織である全共斗はいかなる自治会や学生大会の決定にもよらないテッパあげ組織であり、彼らは全学バリエート封鎖とこれまたどの学生大会でも否決され全く学生の意思を無視した戦術をとることによって挑発活動に狂奔している彼ら反動勢力の大学自治破壊、民主勢力の増進という外からの攻撃を積極的に誘発すると同時に自治会民主主義の無視にとどまらず大増収のあらゆる自治と自治組織そのもの、破壊を内から破壊しようとしている。全共斗のこれらの挑発破壊活動は理論的、実践的に粉砕し、彼らを東大から一掃することによって真に民主勢力の団結と民主勢力の団結と民主運動の発展を勝ち取るための闘いが現在東大で粘り強く闘われているのである。このように現在の東大の事態は単なる一大学における学回競争のワケを越え、日本の教育研究を民主的に発展せしめ得るかどうかが、学問と研究の進歩と自由を争い得るかどうという重大な問題となっており、それは日本の平和と民主主義を争い発展させてるかどうかという大きな問題と密接に結びついている。また七十号問題に前に強大な民主勢力の統一戦線が必要となっている。今民主勢力の統一を妨けているトロツキストをはじめとする反全学連諸派